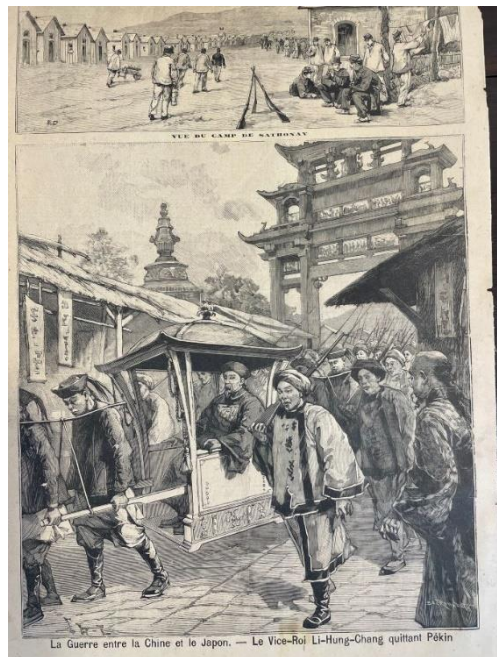


195 100 年前にフランスで報じられた日本のニュース（2023 年 9 月 19 日）

パリ中心部のポンヌフ橋付近のセーヌ川沿いには、露天の古本屋であるブキニストが並んでいます。ブキニストは、ポンヌフが完成した 16 世紀から存在したと言われるほど歴史があります。ブキニストの商品が置かれた緑の箱が長く連なる風景は、パリの観光スポットとして知られています。

セーヌ川沿いを散歩していたときに、ブキニストには古本だけではなく、古い雑誌や新聞も売られていることに気付きました。売られている新聞は、19 世紀末から 20 世紀前半にかけて発行されたものです。これらの中に、日本に関する記事を掲載した新聞がありましたので、購入して読んでみました。

最初にご紹介するのは、1895 年 3 月 31 日付けのル・プチ・パリジャン紙です。この新聞は、1876 年に創刊され、1944 年まで発行された日刊紙です。当時の有力紙の一つで、第一次世界大戦末期には発行部数が 200 万部を超え、世界で最も多い発行部数を誇ったと言われています。見つけたのは、週一回発行された挿絵入りの新聞です。この号では、日清戦争が取り上げられています。日清戦争とは、1894 年夏から 1895 年にかけて日本と清（現在の中国）との間で勃発した戦争です。3 月初めに清の全権代表を務めた李鴻章が日本の下関（現在の山口県下関市）に到着し、当時の総理大臣であった伊藤博文や外務大臣の陸奥宗光と面会して終戦に向けた交渉が進められており、清側が提示した譲歩の条件を日本が受け入れるか注目される内容が報じられています。北京を出発する李鴻章を描いた版画も掲載されています（写真右）。この後、4 月 17 日に日清講和条約（通称、下関条約）が締結されました。新聞を通して、当時の東アジアの情勢が、フランスにも伝えられていたことがわかります。



ル・プチ・ジョルナル紙にも、日本に関する記事がありました。この新聞は、1863 年から 1944 年まで発行され、ル・プチ・パリジャン紙と並んで影響力のあった日刊紙でした。この新聞には、毎週日曜日に発行された挿絵入りの新聞も発

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

行していました。1901 年 10 月 27 日付けの新聞には、フランスの軍艦と日本の巡洋艦の衝突事故で命を落とした軍人の記念碑が、神戸（現在の兵庫県神戸市）の外国人居留地に建立されたというニュースが掲載されています（挿絵は写真右）。また、1922 年 3 月 22 日付けの新聞では、雪解け水による洪水を報じています。当時の日本は今よりも雪が多く、治水対策が十分になされていなかったため、春になると雪解け水によって川の水量が増えて各地で洪水が発生していました。洪水の様子をイメージした挿絵（写真右下）も掲載されていますが、日本人の目から見ると、日本ではなく中国を描いたように見えます。人物の髪型や衣装から見て日本人ではなく、赤い屋根の建物や獅子は中国に多く見られます。テレビやインターネットがない時代に、限られた情報を元に描かれた挿絵でしょうから、実際とは異なる場所があっても仕方ありません。

今から 100 年以上も前のフランスで、時事問題だけではなく、社会面の記事も含めて、様々な日本のニュースが報じられていたことに驚きました。

